〔共済連だより〕

家畜診療日誌

真庭家畜診療所 岩原 幸治

昨年投稿してから早1年が経ちました。 前回不 況の中、畜産界がどう変化し閉塞感を打破できるか、 私見を述べさせていただきました。

意に反して昨年は口蹄疫にはじまり、夏の猛暑、 年末には鳥インフルエンザと新ためてグローバル な疾病の発生によって、畜産が壊滅することを痛感 させられました。

そんな中で昨年11月に表明されたTPPが大 騒ぎになっています。TPRなら(Tは体温、Pは 脈拍、Rは呼吸)我々毎日、患畜の基本的な状態と して把握しなければならないことです。

環太平洋連携協定ー関税を撤廃して自由に貿易する協定ということで、明治維新・第2次世界大戦の敗戦に次ぐ第三の開国で、菅政権と財界が推進しています。

現在日本の農業は、法人化による大規模経営と多種多様な零細兼業農家が混在しています。開国すれば、外国の規模やコストに敵わず、大型経営がつぶれ、零細家族経営が残るのではないでしょうか。

TPPという黒船により、日本の農業の改善点が 見えてきたと思います。

- ① 農地法等で、誰でも簡単に農地を取得して農業 をすることができない。国内の鎖国をどう開放 するのか。
- ② 就農者の平均年齢が66歳と高齢化が進み、このままでは10年後の担い手が深刻である。若者がやりたがる農業にどう変革するか。
- ③ 購入飼料(輸入)に依存した飼養形態から脱却し 自給飼料活用へどう図るか。
- ④ 乳脂肪率3.5%、サシ偏重の肉格付けによるコスト高と病気の増加の見直し。
- ⑤ 消費者との絆を強化し、国産農産物の割高を理解してもらう。などです。

一方日本は、ジャパン・シンドローム(病的現象) に陥っていると言われています。世界史上初の急激 な人口減少により、世界第2位の経済大国から短期 間で滑り落ち、少子高齢化と労働人口減少が経済衰 退へとさらに負の連鎖が始まっているそうです。

連鎖を絶つためか経済の疲弊をくい止め、人の流入もある輸出産業が活発化すると、TPPは期待されています。

しかし、開放すれば外国人労働者も入り商工地域 は潤いますが、僻地、耕作放棄地、限界集落、森林 等、経済的に成り立たない農林漁村はどうなるので しょうか。

国土は日本人みんなの大切なものですから、TP Pにかかわらず農林漁村を守る人を公務員として 国が面倒見たらよいと考えます。

アメリカ主導の制度のようで同盟国として参加 するのか、発展めざましい中国を中心とした東アジ アを重視するかの選択でしょうか。

"遠くの親戚より近くの他人"まずは近隣との関係を良くし、いざといううときは一族としての結束を果たすことだと考えます。

海外依存による食料調達は、冒頭の伝染病、異常 気象 (洪水、干ばつ)、国の力関係等で不安定要素 が多すぎます。

新たな問題として中国、韓国、インドはアフリカ、 東南アジアなどで大型機械による食糧生産を行い、 現地を無視した調達で新植民地主義といわれて批 判されています。

以前から小規模経営を切り捨て、大規模経営ばかり推奨して来ているが、益々拍車がかかると思います。本当にこれでいいのでしょうか。

経済と農業(食料)を同じ土俵で扱うべきではないと考えます。もし平成の坂本龍馬さんがいるならば答えて欲しいものです。